

令和5年度



幼稚園だより 5月号

文京区立小日向台町幼稚園

子どもが軸になる生活を意識して

園長 小岩井 聡

先日、年長児が育てていたスナップエンドウがたわわに実り、収穫の時期を迎えました。「お味噌汁にしてみんなで食べられるかな？」など子どもたちは、いろいろと考えていたようですが、その収穫量は子どもたちの予想をはるかに超えていたようです。私が見せてもらったスナップエンドウは、直径30センチほどのザルに山盛りでした。

採ったスナップエンドウは、主事さんに塩茹でしていただき、みんなで味わいました。野菜が好き、嫌いなどと言っている子は全くおらず、みんなが「美味しい、美味しい」と大喜び。その時の顔は、世界に一つだけの大切なスナップエンドウを大切に味わっていました。

さて、話は変わりますが、今、園庭はこいのぼりがたくさん泳いでいます。大きなマゴイ、ヒゴイと子どもたち。吹き流し。それら幼稚園のこいのぼりと一緒に、元気に泳いでいます。

年長組がグループで協力してつくり上げた、色とりどりのこいのぼり。「きれいだね。」と登園の時にも、みんな見上げていました。素敵な光景です。

「出来上がって、嬉しい！」という達成感だけではなく、この楽しいこいのぼり製作に取り組むことによって、これからの学びに向かうための大切な力がそこで培われているのです。

それは「**協働性**」です。「仲間と力を合わせて、目的に向かって取り組む力。」それは、文字で見ると簡単なようですが、そこには、自分のイメージを伝える「**語彙力**」、仲間で連携する「**コミュニケーション力**」、仲間の気持ちや言葉を受け止める「**受容力**」そして、みんなの思いを一つのものにしていく「**調整力**」など。様々な「力」を駆使し、自分なりに発揮し、そういった経験を経て、子どもたちの「**協働性**」が育っていくのです。この力は、今後もあらゆる場面で子どもたちは獲得していきます。年長児だけでなく、年少児、年中児も、好きな遊びの中での様々な経験が、そういう「**力**」につながっていきます。

そして、子どもたちの協働性は、小学校にもつながる大切な学びです。幼稚園という仲間集団だからこそできる経験です。

コロナ禍、人と関わることを制約され、直接的なコミュニケーションを取りづらかった子どもたちには、これから「**協働性**」を楽しみながら身に付けてもらいたいと思います。

5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の対応も、新たな局面を迎えると思います。それも踏まえつつ、今後も子どもたちの安全に十分に配慮しながら、子どもたちの成長にとって、より良い経験となる「遊び」を「子どもを軸」に進めていきます。今月もよろしく願いいたします。

